令和7年度　学校経営計画・評価計画　（四中　最高！最校！さぁ行こう！）

学校名	国分寺市立第四中学校	校長名	田中　一郎	創立	昭和50年 創立50周年	校訓 四中魂	四つ葉のクローバー 思いやり、正義、助け合い、伝統

1　教育目標　　すすんで学び心身共に健康で思いやりのある人になる

2　目指す学校

目指す生徒像	目指す学校像と教師像		
自己表現できる生徒 互いに認め合える生徒 粘り強く取り組む生徒	生活指導	学校像	生徒の人格が尊重され、安心して通い、学びあえる学校。
		教師像	生徒の人格と多様性を尊重し、個性を伸ばし、社会的資質や行動力を高める教師。
	特別活動	学校像	豊かな人間関係を育み、協力してより良い校風を育む学校。
		教師像	生徒の適性や能力に応じた役割を与え、よりよい集団をつくりあげる教師。
	学習指導	学校像	時代の流れを踏まえ、生徒の将来を見据えた学力を育む学校。
		教師像	生徒の「知っている・できる」を「使える」ようにし、生徒の未来を明るくする教師。

3　学校経営計画

【経営計画の重点】 目指す生徒像「自己表現できる生徒・互いに認め合える生徒・粘り強く取り組む生徒」を基軸とした教育活動の構築Ⅰ
～ 新しい四中の50年を歩みだす第一歩 ～

項目番号			中期的目標	短期的方策	今年度の取り組み目標	今年度の方策
豊かな人間性の育成	1	豊かな心	・人権教育の充実 ・道徳教育の充実 ・特別活動の充実 ・生活指導の充実 を通して、自分の良さや可能性に気付き、互いを認め合う豊かな人間性を育成する。	全教育活動を通して、心を育てる教育を推進し、いじめ防止教育の充実に努め、互いの人権を尊重し合う態度を育てる。	①「仲間を大切に」を合言葉に生徒一人一人が自身と互いを大切にしあえるようにする。 ②四中宣言、いじめ防止基本方針に基づき、未然防止、早期発見、早期対応を図る。 ③考え議論する道徳授業、実践につながる道徳性を育成する。	①人権尊重を基盤とし、生徒一人一人の存在と多様性が尊重される集団を育む。 ②「いじめ防止基本方針」に則り、いじめ防止教育を徹底する。 ③行事等を通して、互いを認め合い、よりよい校風を育む。
	2	生活		認め合う姿勢を醸成し、社会的資質や行動力の向上を図るとともに、困難をしなやかに乗り越え回復する力を育む。	①規範意識（四中スタンダードに基づいた学校生活を主体的につくる）の醸成 ②自他の個性、努力を認め合い、思いやり、よりよく成長しようとする豊かな人間性の育成 ③広く社会に目を向け、地域や社会の課題に主体的に向き合う態度の育成	①基本的生活習慣を確立する。（時間を意識した生活） ②挨拶の日常化を図る。（自然な挨拶） ③主体性をもって何事にもチャレンジさせる。（自主的な行動）
確かな学力の定着	3	基礎	・基礎的・基本的な知識・技能の向上 ・思考力、判断力、表現力の向上 ・生徒の視点に立った授業改善 を通して、豊かな未来を創造する確かな学力の定着を図る。	主体的・対話的で深い学びの実践を通して、基礎的・基本的事項の習得を図る。	【すべての生徒の学ぶ力を育む教育活動・教育環境の改善】 ①ユニバーサルデザインの視点及び個別のニーズに基づいた学習環境の整備 ②個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した授業改善 ③教科横断的な学習活動、特に活用型学習の軸として学びの方向性と指導体制を整える ④探究的な学習を拡げるカリキュラム・マネジメントの推進	①主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に取り組む。 ②ICT機器の効果的な活用を推進する。 ③読書活動を充実させる。
	4	活用		個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をもとに、・思考力、判断力、表現力の向上を図る。		①個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した授業改善に取り組む。 ②体験活動を取り入れた、探究的な学びによって自ら学ぶ力を育成する。 ③1人1台端末を活用し現代の諸問題を主体的に捉え解決しようとする意欲を育てる。
たくましい心身の育成	5	支援	すべての子どもたちを大切にする教育を推進する。	特別支援教育の視点に立った、一人一人に応じたきめ細かな対応を充実させる。	○個別課題の理解と教職員の支援力向上 ○校内各支援システム～運営と連携の充実 （組織的な取組を向上させる工夫と改善） ○関係機関及び心理士等との連携を生かした日々の支援の適切な改善	①特別支援教育の視点に立った、指導・支援を全教員で実践する。 ②サポート教室の整備や関係機関との連携を通して、必要な支援を行う。 ③不登校生徒や保護者に寄り添い、課題の解決に向けて取り組む。
	6	体力・安全	健やかな身体の育成と、体力向上に向けて取り組む。	健康で安全に生活する力を育成する。	○東京都統一体力テストを活用し、自己の体力を客観的に把握し体力向上の指針とし、運動の日常化を図るとともに、健康についての意識を向上させる。 ○有事の際の身の安全の確保について、国分寺市防災安全課・地域消防署・地域防災会との連携しながら、指導を行う。	①生徒が上達し、運動が好きになるような保健体育の授業改善を実践する。 ②校内での取組や家庭で取り組める運動の周知を通して、運動習慣を確立させる。 ③安全指導、避難訓練等を通して、主体的に自他の命を守れるようにする。
学校・家庭・地域の連携	7	特色	生徒、保護者、地域にとって親しめるよう、特色ある学校づくりを推進する。	国分寺学の実施を通して、地域を考え、地域に貢献する生徒の育成を図る。	①プロジェクト型探究学習を継続・発展させ、持続可能なカリキュラムとする ②コミュニティ・スクール機能を活用し、学習活動の広がりを増すとともに生徒の社会性、主体性を育成する ③学習、活動を通して地域コミュニティへの参加を促進する	①9年間の学習活動の集大成として、3年生の国分寺学×SDGsプロジェクト探究学習を実施する。 ②3年生の国分寺学×SDGsプロジェクト探究学習では、体験と地域への貢献を必ず取り入れる。
	8	連携	四中校区CSを発展的に推進し、持続可能な地域とともにある学校づくりを進める。	コミュニティ・スクールとして学校・家庭・地域との連携・協働を進める。	①従来の教育課程の人的、設備的制約を超えて教育活動を創造する ②地域学校協働本部の具体的実践をスタートし、学校・地域を活動でつなぐ（CS2年目） ③学校評価項目を改善し、コミュニティ・スクール9年間を見通した運営・評価体制を整える	①9年間を見通した系統的な小・中連携教育を通して、学力向上、生活指導の充実を図る。 ②国分寺型コミュニティ・スクールを通して、地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていく。

4　学校経営計画を支えるための組織と研修			
学校運営	教科	履修管理と適切な評価	年間指導計画に基づいた学習指導と履修管理を徹底する。 年間評価計画に基づき、適切な評価と評定を行う。 年間指導計画と評価計画は年度当初に家庭配布し理解を得る。
	学年 （横組織）	組織的な学年運営と 若手の育成	学校経営計画、学年経営計画に基づき学年運営を行う。 分掌（縦組織）との連携を密にするとともに、学年内の副担任機能を向上させる。 若手教員が職務を通して資質・能力を向上できるようにする。
	分掌 （縦組織）	組織的な分掌運営と 若手の育成	学校経営計画、分掌経営計画に基づき学校運営を行う。 各分掌組織および職務を通じた人材育成に努める。 各分掌内の職務内容、具体的手順や方法、記録や保存について整理・再構築する。
	経営支援	経営支援体制の 整備と効果的な運用	経営支援部の組織的かつ実効的な整備を進める。 共同事務室との連携を密にし、副校長支援機能面の開発を進める。 CS、保護者組織（四サポ）との連携・協力を促進し、活気ある適性な活動を目指す。
	予算	予算の適正な執行と管理	私費会計を含めて適切に執行管理を行い、会計事故防止に努める。 予算の早期執行、消耗品費の削減により一層努める。 施設等の安全面については、教育委員会と連携し適宜対応する。
	感染症対策	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝに則った 適切な対応と情報発信	教職員の共通理解のもと感染防止策を組織的かつ適正に実施する。 正しい情報を共有・発信し、学校・生徒・保護者・地域の安心・安全に努める。
資質・能力開発	資質向上	人間性豊かな教師	○生徒指導の意義を正しく認識し、生徒の手本となる。 ○受け入れてもらっている安心感と厳しく叱ってもらえる安心感の両面性。 ○思春期の生徒の気持ちに向き合い、人格を尊重し、行為は毅然と正す。 ○信頼を根底から崩さないよう、服務事故防止研修を実施する。
	能力向上	専門家としての教師	○学区域の小学校と研究を推進し、学習指導と生活指導の連携を図る。 ○いじめ防止基本方針に基づいた、指導力・対応力の向上、重大案件の認識の深化。 ○特別支援教室開設に伴い、障害理解・啓発・適切な対応・支援に関する研修を行う。 ○人権尊重、虐待防止、アレルギー対応等教育課題に対応した研修を行う。
人事	人事・服務	適正な人事管理と事故防止	○職層に応じた職務分担と最適な人事配置を行い、効率的な学校経営を行う。 ○服務事故防止研修を年3回以上実施し、服務事故の未然防止を図る。 ○勤務時間に関する法令を遵守し、超過勤務の削減と休暇取得の促進に努める。

5　課外活動		
部活動	意義（目的）	個性・能力の伸長、体力向上、自主性・社会性の育成、豊かな人間関係の構築、生涯学習の基礎づくり等。
	目標と目的	生徒に適切な目標を与え、それに向かって努力する中で、目的の達成を図る。
	優先順位	安全第一。部活動は生徒の自主的な活動であり、学習活動、委員会活動、学級活動を優先する。
	顧問	教員は理解と協力により顧問を担当し、勤務時間外はできる限り部活動指導員、外部指導員を活用する。
	地域連携・移行	週休日・休日に活動する際は、基本的に教員ではない者が運営・指導する体制を段階的に構築する。
	休養日	部活動ガイドラインに沿い、水曜日は休養日とする。また、週休日は年間を平均して週1日以上を休養日とする。

6　学校評価計画			
項目番号			生徒（保護者）へのアンケート質問内容
豊かな人間性	1	豊かな心	あなた（お子様）は、自分や他者の良さを認め、仲間を大切にしていますか。
	2	生活	あなた（お子様）は、主体的に四中スタンダードを実践し、正しい判断、適切な行動をしようとしていますか。
確かな学力	3	基礎	あなた（お子様）は、各教科の基礎的なことは分かったりできるようになったりしていますか。
	4	活用	あなた（お子様）は、授業中に他の人との話し合いや協働活動を通して理解を深めることができていますか。
心身の育成	5	支援	あなた（お子様）は、様々なことで困難を抱えている人への理解や配慮を心がけていますか。
	6	体力・安全	あなた（お子様）は、日常的に体力向上に努めていますか。また、安全について理解を深めることができていますか。
学校・家庭・地域	7	特色	あなた（お子様）は、総合的な学習の時間や国分寺学に主体的に取り組みましたか。
	8	連携	あなた（お子様）は、地域から学んだり、地域に貢献したりする活動に意欲的に取り組みましたか。

○　アンケートは、7月および12月に実施し、対象は生徒および保護者とする。
○　アンケート評価は4段階とし、各項目とも上位2段階の合計数値が80%を上回るよう教育活動の充実に努める。